

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・年数回(夕涼み会・クリスマス会・敬老会・法人バザー・外出レク)の行事を取り入れている。</li> <li>・主治医とは、連携がとれており、健康管理ができています。</li> <li>・ほぼ毎日利用者、スタッフが集まってゆっくり話したり体操したりしている時間がもてており、その中で利用者のことを知ろうと努力している。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年、「ふるさとに帰ろう」を計画し、利用者が元住んでいた所へ出かけてみることを支援された。利用者は、風景を懐かしみ、「老舗和菓子店」「明治橋」「元産婦人科」等、以前の様子やエピソードを話してくださり、職員は驚かされたようだ。ご自宅には入れない状態となっているような場合もあるが、職員は、「その時その時の生き生きとした感情に触れることができた」ことを実感されていた。</li> <li>●職員は、利用者へ、「20歳の頃は何をしてた？」「結婚は見合い？恋愛？」等、話しかけを工夫して、個々のことを具体的に知ることに努めておられる。利用者によっては、お話をうかがっているうちに、昔の苦労を思い出して涙をいっぱい流される方もあったようだ。利用者から聴いた話をご家族に伝えると、さらに深い情報が得られることもある。利用者やご家族から得た情報は記録され、3ヶ月毎に書き直すようにされている。</li> </ul>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li><input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li><input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li><input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li><input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)  
氏名 広瀬照美

評価完了日 24年 10 月 15 日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をつくり玄関・事務所・リビング等、目につく所に掲示している。 「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」を常に心に留めながら実践している。	
			(外部評価) 「地域の中で、その人らしく暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」「家庭的な雰囲気の中でゆっくり、楽しく、いつも一緒にをモットーとして自立支援を行う」と、2項目の理念を揚げておられ、特に、「尊厳を大切にされた支援」に力を入れ取り組みをすすめておられる。利用者自身で意思表示がままならなくなっても、職員は、ご本人が選んだり決めたりできるような場面作り心がけ、ご本人の目の動きや表情から少しでも意思を汲み取ろうと努力をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 当ホームで年1回夕涼み会を開催し地域の方々にも参加してもらっている。 地区の行事、中学校の運動会や福祉体験、地域の防災訓練等で交流を図っている。利用者のADL低下により全員参加が難しくなっている。	
			(外部評価) 恒例となった「夕涼み会」は、近所の方から「今年はいつするの？」と聞かれほどになり、今年は、金曜日に開催したことで、予想以上の参加があったようだ。隣の中学校からは、1日福祉体験を継続して受け入れておられ、さらに、生徒がボランティアにも来てくれて、利用者と一緒にゲームをしたり似顔絵を描いてくれたりしながら、一緒に過ごされている。敬老会やクリスマス会にも、歌や演奏の地域ボランティアの方が来られている。運営推進会議時には、地域行事の案内をいただくが、現在は、利用者の状態のこともあり、参加することが難しい場合も多いようだ。公民館行事の「七草がゆ」のお接待の日には、公民館長が七草がゆを事業所に届けてくださる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験や実習を受け入れ認知症の人の理解や支援方法を説明している又運営推進会議を通じて関わりをもっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に一度開催、利用者へのサービスや活動状況について報告し意見や助言を頂いている。 会議ででた意見は、スタッフ会で伝え皆で話し合いサービス向上に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>4月の会議時、避難訓練の報告を行った際には、「あまり手はずを整えず、災害は突発的に起きるということを念頭に置いて実施してはどうか」という意見をいただき、11月には、いきなり訓練を行ってみることを試された。その結果、職員がてきぱき動けたことが確認できて、安心につながったようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市担当の方が運営推進会議に参加又月1回さわやか相談員に來所して頂き利用者とは話したり助言を頂いている。事故の報告や連絡会等、いつでも快く相談に乗っていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市主催の勉強会には、年3回、職員が2名ずつ参加し、学んだことを後日、スタッフ会時に他職員に周知されている。事業所の事故報告や防止対策等についてアドバイスをいただくこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員一人ひとりが理解し、身体束縛しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員が利用者の動きを気付けるように、利用者の状態によっては、ベッド柵やドアに鈴を付け対応されている。ベッド柵を用いる場合は、設置する場所等をご家族と相談したり、ご家族等にも見ってもらったり報告しながら、ベッド柵をしなくても済むような支援に向けて取り組まれている。声を出して職員を呼ぶことが難しい方は、夜間、まくら元にタンパリンを置いて休まれている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会に参加、スタッフ会で報告し意識の統一を図っている。 言葉づかいや対応等利用者が不快な思いをしないよう注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 八幡浜グループホーム連絡会の研修他で勉強しているが、現在、制度利用の可能性のある入居者はいない。必要に応じ今後勉強会等行っていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に管理者とユニットリーダーが契約に関わり重要事項説明書に沿ってゆっくり説明し、質問等にも対応している。理解、納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会、来所時に意見、要望を聞いたり2ヶ月に1回アンケート葉書きを送付し、家族からの意見を頂いている。又2ヶ所に意見箱を設置している。意見等あればスタッフ間で話し合い運営に反映している。 利用者の声は、日頃から聞くように心掛けている。 (外部評価) 家族会は、年1回行なっておられたが、「ご家族にもっと参加していただきたい」という思いを込めて、年2回開催することに取り組まれている。前回の家族会時には、食事が済むと帰ってしまうご家族も見られたため、今回から先に意見をうかがい、その後、食事できるようすすめ方を工夫された。意見交換の場では、「入居してから状態が低下した」というご家族や、「落ち着いたし、よくなった」という感想も聞かれ、ご家族同士の意見交換の機会になっている。ご家族からいただいた意見の中から、今月の行事を入口のドアに貼って、ご家族の来訪時に分かるよう取り組まれた。ご家族に「面会名簿」をお見せしたり、口頭で面会者を報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1度スタッフ会を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。 法人の運営会議でスタッフ会での意見を伝えている。	
			(外部評価)	
			毎月のスタッフ会で、シーツ交換やトイレ掃除を行う時間や外出の予定等について、勤務の効率がよくなるよう、意見を出し合っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			登用制度があり、能力開発カードで、目標達成に応じ、評価してもらっている。 年一回異動希望調査を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人に研修規定があり、受講料や交通費が支給される。 2ヶ月に1回ホームで認知症についての勉強会を行っている。 又経験の少ないスタッフは重点的に研修を受けるよう進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他事業所の運営会議や行事に参加し交流している。 年1回、リーダー研修生を受け入れ意見を頂き、ケアに反映させている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に管理者とユニットリーダーが面接し不安なこと、要望等に耳を傾け、安心の確保に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時に困っている事、要望等を聞きスタッフ会や申し送り時に 報告、共有するようにしている。 見学や申し込み時にも困っていること、要望を聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に医療情報課の情報や面会時に状態を見たり、家族の話聞くことで受け入れている。 入所後計画担当者が家族や本人の要望等を聞きケアプランを作成本人、家族に支援方法を説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯たたみ、料理の下ごしらえ等できる範囲のことはしてもらっているが、重度化がみられ、できることも限られてきている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの情報は来所持や毎月の請求書と共に細かく伝えている。面会や受診をお願いしたりして支援方針について相談したり、協力関係をつくるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 重度化に伴い行動範囲がホーム内になり人間関係も家族中心となりつつある。個別の支援が業務に追われなかなか出来ない状況 (外部評価) 今年は、「ふるさとに帰ろう」を計画し、利用者が元住んでいた所へ出かけてみることを支援された。利用者は、風景を懐かしみ、「老舗和菓子店」「明治橋」「元産婦人科」等、以前の様子やエピソードを話して下さり、職員は驚かれたようだ。ご自宅には入れない状態となっているような場合もあるが、職員は、「その時その時の生き生きとした感情に触れることができた」ことを実感されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日レクレーションやおやつ時スタッフや他者とコミュニケーションを深めたり又リビングにソファを設置、気の合う者同士が談話する場を提供、利用者が一人にならないよう努力している。 中には、ひとりがいい方もおり難しい面もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 町で会った時に声を掛けたり、他の施設に移られた場合は面会に行くことがあるが、なかなか難しく出来ているとは、いえない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り本人の思いや希望を聞いたり、日常の様子から対応できるよう努めているが、意思表示が困難な方が増えてきている。 職員の手薄により業務が忙しかったりと十分には対応出来ない。 (外部評価) 職員は、利用者には、「20歳の頃は何をしてた?」「結婚は見合い?恋愛?」等、話しかけを工夫して、個々のことを具体的に知ることに努めておられる。利用者によっては、お話をうかがっているうちに、昔の苦労を思い出して涙をいっぱい流される方もあったようだ。利用者から聞いた話をご家族に伝えると、さらに深い情報が得られることもある。利用者やご家族から得た情報は記録され、3ヶ月毎に書き直すようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個別に基本情報を作成し、スタッフ全員が情報の把握に努めている。長年入居されている方も多く、本人や家族からも、入居前の生活や環境なども聞き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタルチェック、様子観察をおこない、介護記録に記入し変わったことがあれば、見逃さない様努めている。 申し送り時や出勤時に目を通しスタッフ全員が把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の意向は、日頃の関わりで把握するよう心掛けている。アセスメントを十分に行い、家族・本人の意見を聞き、スタッフでのケアカンファレンスを行い計画を作成している。毎月モニタリング、3ヶ月ごとに立て直しをしている。</p> <p>(外部評価) 「何かすることない？」と絶えず尋ねてくださる利用者の方がおられ、その方に「できることをお願いする」ように、介護計画を立てておられる。転倒の危険がある方には、防止策として車いすのブレーキ確認、糖尿病で悪化が心配される方には、食事量の目安等が計画に盛り込まれていた。利用者によっては、居室に介護計画を綴じて置き、利用者にお見せする等されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 気づいた事や変わった事は記録に残し申し送りしている。特別に変わった事は業務日誌にも記録し情報を共有している。ケアカンファレンスで再度情報交換を行いケアに生かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 病院の受診介助にいたり、美容院の方に来てもらって散髪してもらっている。家族や利用者に希望を聞き、できるだけニーズに対応できるよう努めているが、重度化に伴いサービスの拡大がなかなかできない面もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 中学校の運動会を見に行ったり、公民館のバザーに参加している。ホームの行事にボランティア方に来てもらい楽しませてもらうこともある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月2回定期的に主治医が往診している。又毎日、利用者の様子をファックスで報告している。変わった事があれば往診してもらい、急変時には、24時間対応していただいている。	
			(外部評価) 利用者は、協力医である主治医の往診を受けておられ、他科受診は、ご家族が受診に付き添われたり、付き添えない場合は、介護付きタクシーを利用して受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週2回看護師の訪問があり、健康管理をして頂いている。不安がある時は状態を報告しアドバイスをもらっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体病院の場合、医療情報課や看護師を通し蜜に情報交換がおこなえている。 外部の病院となると書面での情報交換を行い、様子を見に行く等で退院ごとの生活につながるようになっている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にホームでできることは説明している。本人・家族より十分な希望が聞き取れず早い段階で具体的な方針は立てられていない。重度化してから具体的に話が進む感じである。	
			(外部評価) ご家族へは、入居時の説明以外に、母体病院が「回復期病棟」になったことで、受け入れ状況が変更されたことを伝えた結果、2名のご家族から「事業所での看取り」の希望があったようだ。 終末期のあり方については、機会をみながら早い段階から利用者の希望を探ってみてほしい。利用者やご家族の希望に沿った終末期支援に取り組めるように、体制作りをすすめていかれてほしい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			研修や消防署で救命講習を受け急変時の対応を勉強している。又ヒアリハットや事故報告書を基にその都度活用し対応の見直しをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回避難訓練を実施している。又消防署や関係機関の方にも参加して頂き、意見をかわしている。	
			(外部評価)	
4月の津波を想定した訓練時には、利用者を避難させる方法について消防署から「情報収集をしながら、2階へ避難するか中学校へ避難するかを判断」するようアドバイスがあった。火災発生の場合、管理者は「2階から降りる手段や場合によってはフェンスを乗り越える手段の検討も必要」と話しておられた。	夜間や地震等のいろいろな場面を想定した避難訓練を繰り返し行い、利用者、職員の安心と安全のためにも課題の解決に向けて取り組んでいかれてほしい。さらに、日頃の地域とのつきあい等から、地域との協力体制作りに向けた取り組み等もすすめていかれてほしい。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			新人研修で接遇やマナーを学んでいる。スタッフ会でも言葉の勉強をし人格を尊重したケアに努めている。	
			(外部評価)	
			接遇の研修に加え、ケアの現場で、職員の声かけの大きさ等、気になる時には話し合ったり、利用者に恥ずかしい思いをさせないよう、特にトイレ誘導時には注意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			本人に声掛けをし確認をとり選択できるようにしている。自己決定が出来ない人には、ジェスチャーや疑問系で声掛け又顔の表情、目の動き等で自己決定できるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせ自室に戻り休息をとったりリビングで寛いだりしている。 帰宅願望のある時には、散歩したり、2階の入居者様と談話して気分転換をして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回美容室の出張サービスを受けている。 入浴や外出の際には、スタッフも一緒に好みの服を選んで頂きながらコーディネートをし本人が納得出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日や行事等には、食べたいものを聞き希望に添える献立にしている。 調理の下ごしらえ、米とぎ、膳の下げ等一緒に行っている。	
			(外部評価) 行事食として、「誕生日のお好みメニュー」、「敬老会」「クリスマス会」「外出時のお弁当」等を工夫されている。「パンは自分で手に持って口に運べる」等、利用者の持っている力を使いながら、職員は、介助したり見守りながら、できるだけ口から食べられるよう支援されている。又、とろみの粘度等、のみ込みの状態を見ながら調節されている。利用者は、お茶を入れたり、食事の準備や片づけを職員と一緒にやっておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は記録し把握している。 医師の指示のある方は薄味にし量を調整している又嚥下の悪い方には、ミキサー食でトロミをつけて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。自力で行える方は、声掛けをし、介助の必要な方は、口腔内を確認している。 週に1回は義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  なるべくトイレで排泄できる方は、継続して行きたいと思っている。 ADL低下でトイレ誘導している方が減っている。	
			(外部評価)  ご自分でトイレに行ける方が少なくなり、時間誘導やチェック表を参考にトイレ誘導をされている。入院を機に、立つことが難しくなって退院される方が多く、立つ練習から始め、トイレで排泄できるような支援につながるよう取り組まれている。管理者は、「元の状態に戻るまでに入院期間と同じ位の日数が必要」と話しておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  体操や水分を声掛けして摂って貰うようにしているが、多くの方が便秘気味で薬に頼りがちである。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  一人ひとりの希望に沿うのは難しい。順番はずらしたり、拒否される時は柔軟に対応している。	
			(外部評価)  一日に3人ずつ入浴するようになっており、利用者は週2回入浴するようになっている。介助が必要な利用者が徐々に増え、浴槽や洗い場、手すりの位置や入口の幅等、重度化への対応が難しくなっている現状のようで、入口ドアのレールが車いすの走行に差し支える点については、今後、法人内の全事業所が改修する予定となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  眠気のある時や、しんどそうな時は、自室にて休んでもらっている。状況に応じた対応をしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	薬の説明の用紙をファイルしいつでも見れるようにしている。薬の変更や気になる時は確認や様子の観察をしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	生活歴や好きな事等を把握するように努めているが、重度化しているため十分な支援ができていない。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	重度化してきているため、外出支援は難しくなっている。面会時家族と出かけられる方はいる。
			(外部評価)	初詣・花見・紅葉狩り・買い物・フェリー見物等、大体月に1回は外出できるような機会を作っておられる。体調によっては外出が難しい方もおられるようだが、気候のよい時期には、ベランダで昼食を楽しまれたりされている。ご家族や職員と一緒に散歩して、近所の方とおしゃべりが弾む方もおられるようだ。「故郷に帰ろう」を計画し、個別に行きたい場所へ出かけてみる支援に力を入れて取り組まれている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	利用者は外出された時ホームで立て替えて好きな物を買ってもらっている。今はお金を持たれていない。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	利用者が希望をすれば電話を掛けたり手紙が書けるようにはしているが、家族と連絡できる方は限られている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よい空間になるよう心掛けている,写真を貼ったり壁画を作ったり、季節感を感じ見て楽しいホーム作りを心掛けている。	
			(外部評価) 静かな住宅街にあり、玄関に入ってドアを開けると正面の目につく高さに神棚がある。玄関脇には少人数で話せるスペースがあり、調査訪問時には、2階ユニットの利用者が降りて一休みされていた。居間には、利用者の作品やお出かけの写真が貼ってあり、来訪者にも、その様子が分かるようになっている。テレビを囲むソファではおしゃべりを楽しんだり、テーブルでは塗り絵や貼り絵に夢中になる利用者の様子もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士の関係を考慮しソファに座ってもらったり、テーブル席を決めている。 リビング以外にも、座る所があり一人でゆっくりしたい時には、そこで過ごされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、入居時に使い慣れた物を持ち込んでもらっている。 病院退院後、入居という方も多く、殺風景になりがちな方には写真や作品を貼ったりしている。	
			(外部評価) 居室には、ベッドとタンスが備え付けられており、利用者は、テレビや身の回りの物を持ち込まれている。利用者の方によっては、落ち着かない状態の時、掲示物を一時期取り外したようなこともあったが、落ち着いてこられたため、ご家族の写真を目の高さに飾られた。ご本人は、指をさしながら眺めておられるようだ。壁に当たることで、皮膚が擦れる方もおられ、職員は壁にカバーを付けて対応されていた。新聞の番組欄で時代劇をチェックし、時間が来ると職員にテレビを点けてもらって楽しむ方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレには、大きく「便所」と表示したり、席がわからない方には赤いテープを貼ったり工夫している。	